

随想

自分の道



愛知淑徳中学校教諭
大津賀賢

いつの頃かは忘れたが、たぶん中1の頃であろう。勉強にいきづまり、何からやっ
てよいのかわからぬままに悩んでいた。そ
のとき母親から、「人生は坂の上り下り
の繰り返しである。道はずれること
なく進みなさい」と教えられた。上りは
きつくゆつくり歩き、下りは早く一気に
下ってしまう。でも距離は同じである。苦
しくとも、今できることを一つひとつ解
決して、前を向き坂道を進みなさい。そ
の言葉を信じ、現在に至っている。今58
歳となり、1月には孫が誕生して幸せな
日々を過ごしている。

これまでに一度だけ人生の決断を迫

られたことがある。大学4年生のとき、
教員採用試験に失敗。1年間、愛知淑徳
高校の講師を経験した。翌年、県の採用
試験に合格。親から地元の小学校に就
職するよう勧められた。でも1年前に私
を採用しなかった場所に行く気にはなれ
なかった。偶然にも愛知淑徳の採用があり、
自分は愛知淑徳学園を選択した。

この時、自分の進路は自分で決めるべ
きであると心に決めた。せっかく自分で
決めるのだから、後悔しないよう、公立の
学校ではできないクラブ指導に専念しよ
うと決め、陸上部の指導に明け暮れた。

最初の10年間は、先輩と一緒にクラブ活

動を見ていたが、その後は自分が監督に
なり、指導するようになった。振り返れ
ば、満足のいく結果を残したと思っている。
愛知淑徳に勤めて早35年、ほとんど毎
年、全国高校総体には選手を引率して
いる。全国高校総体、国体で優勝者を輩
出、全国高校駅伝に5回出場、また世界
ジュニア選手権、世界ジュニアクロスカント
リー大会やアジア大会にも選手を送り
出している。残念ながらオリンピック出場
を果たしていないことが、唯一の心残り
である。

今を見つめ、道はずれることなく、坂
道を一步一步進んでいこうと思っている。